

討論メモ

「新しい世界 世界の賢人 16 人が語る未来」

令和 3 年 4 月 20 日

1. 4 月は、本年の 1 月に発売された標記の本の概要について、大平忠さんに解説していただきました。

格差の縮小と拡大の変遷や、様々な危機に際していかに世界中が連帯と協調を実現していくべきなのか、などについて、下記 16 名の賢人の様々な角度からの視点をご紹介します。

ユヴァル・ノア・ハラリ	1975 生	イスラエル
エマニュエル・トッド	1951	フランス
ジャレド・ダイヤモンド	1937	アメリカ
フランシス・フクヤマ	1952	アメリカ
ジョゼフ・スティグリッツ	1943	アメリカ
ナシーム・ニコラス・タレブ	1960	レバノン
エフゲニー・モロゾフ	1984	バラルーシ
ナオミ・クライン	1970	カナダ
ダニエル・コーエン	1953	チュニジア
トマ・ピケティ	1971	フランス
エステル・デュフロ	1972	フランス
マルクス・ガブリエル	1980	ドイツ
マイケル・サンデル	1953	アメリカ
スラヴォイ・ジジェク	1949	スロベニア
ボリス・シリユルニク	1937	フランス
アラン・ド・ボトン	1969	スイス

2. 続いて出席者 10 名による意見交換に移り、下記のような意見が出されました。

- ・大変に読みやすく纏められている本だ。
- ・もう六刷りになっており、よく売れているようだ。
- ・多くの賢人にとって、格差の拡大をいかに解消していくかが重要なテーマのようだ。

- ・コロナが流行る前の編集だったのか、コロナへの言及はない。
- ・中国の軍事進出、人権弾圧などについてもほとんど言及がない。

- ・コロナで弱者、特にシングルマザーが職を失うケースが多い。
 - ・コロナが世の中を変えるきっかけになるかもしれない。
 - ・コロナ渦で、ベーシックインカムに近い形の補償が提唱されている。
 - ・コロナ渦で、大統領権限を強化する国が多い。
 - ・日本政府のコロナ対策は後手を踏んでいるが、政治システムが悪い。
 - ・中国などの強権国家は対応が早い。
 - ・時限立法でよいから、政府に強い権限を与えるべきだ。
-
- ・日本の経済が30年間停滞して、資産も所得も減少し続けている。安くなった土地などを中国や韓国に買われている。
 - ・貧しくなった日本は、それに危機を覚えるどころか、喜んで外資に土地を売っている。
 - ・東北地方では、中国人が観光バスで来て、土地を漁っているのを見た。
 - ・トヨタなど多くの企業が中国市場に頼っている。
 - ・財界は媚中派が多く、中国に取り込まれないか心配だ。
 - ・昭和の経営者は国益を考えていたが、今の経営者にはそれがない。
 - ・五十歳過ぎの幹部の意識を高める必要がある。
-
- ・年次要望書などを通じて米国から圧力がかかり、会社や社会の制度を変えてきたのが、沈滞の原因ではないか。
-
- ・16名の賢人の半ばはユダヤ系だが、金融面だけでなく、言論界、思想界でもユダヤの影響力は大変強い。
 - ・ユダヤは優秀な民族であり、かつまた、迫害され、流浪してきた恐るべき歴史がある。
 - ・ユダヤの教育は優れている。民族の聖典のタルムートを暗記させる一方で、問答方式の訓練という二本立てで教育されている。
-
- ・中国の競争力の原点は国際ルールを守らないことにある。労働環境は悪いし、公害も流しっぱなしだ。
 - ・中国がルールを守らないことを承知の上で、利用してきたのが国際資本であり、グローバル企業だ。
 - ・ウイグル・チベット・南モンゴルの人権弾圧はひどい。
 - ・中国嫌いの日本人が多いが、相手の立場に立って考える必要もある。
 - ・中国文化と中共政府は違う。日本人は中国文化の影響を受けてきた。
 - ・十年前から、中国には警戒が必要と云い続けてきたが、中国は一步ずつ侵略してきている。

- ・言論の自由を確保していくには、日本独自のプラットフォームを持つ必要があるが、なかなか進まない。

- ・メーカーの縄張り争いがある、まとまらない。

- ・統一すべきだが、根本思想がなくてまとまらない。

- ・地球環境を維持するには、贅沢を慎むなど生活態度を変える必要がある。

- ・そうした生活態度を実現するには、先立つものとして経済の自立と安全保障が必要だ。

以上